

案内

John Wesley 回心記念日(5月24日)

青山学院がその伝統に連なっているメソジスト教会の創始者、ジョン・ウェスレー(1703~1791)は、1738年5月24日の夕方、ロンドンのアルダースゲートでのキリスト者の集会に出席しました。そこで、彼は、宗教改革者ルターの『ローマの信徒への手紙の序文』の朗読を聞いているうちに、自分の罪がイエス・キリストの十字架の犠牲とあわれみによって取り去られたことを確信しました。これが「私の心は不思議に温められた」と述懐する回心体験です。以後、ウェスレーは、力強く伝道し、メソジスト教会は、全世界に発展していくこととなります。

前期チャペル・ウィーク

各方面で活躍されている著名なクリスチャンの方をお招きして礼拝でお話をさせていただく1週間です。礼拝時間も通常より10分延長して実施します。是非ご出席ください。

青山キャンパス(月~金 10時25分~11時5分)

- 5月26日(月) 新垣 勉(独立伝道者、テノール歌手)
- 27日(火) 浜 矩子(同志社大学大学院ビジネス研究科教授)
- 28日(水) 服部ひかり(弁護士、本学法務研究科修了生)
- 29日(木) 芳賀 力(東京神学大学学長、教授)
- 30日(金) 糸井 羊司(アナウンサー)

夕礼拝(通常の礼拝)(火 18時~18時30分)

- 5月27日(火) 田所 慈郎(東京神学大学大学院2年)

相模原キャンパス(月~金 10時25分~11時5分)

- 5月26日(月) 小河 陽(関東学院大学教授)
- 27日(火) 中山 良男(独立行政法人産業技術総合研究所 爆発衝撃研究グループ長)
- 28日(水) 國友 淑弘(ゴズベルシンガー、桜美林大学非常勤講師)
- 29日(木) 長津 絹子(家庭料理の店「グラディス」元オーナーシェフ)
- 30日(金) 樋野 興夫(社団法人「がん哲学外来」理事長、順天堂大学医学部教授)

「聖書とキリスト教文化に親しむ会」参加者募集中です!

聖書を学んでみたい方、キリスト教と他の思想、文学、時事問題等との関わりに興味がある方、どうぞ気軽にご参加ください。くわしくは、各キャンパスの宗教センターにお尋ねください。

メンバーを募集しています。

ハンドベル・クワイア、ゴスペル・クワイア、聖歌隊、青山キリスト教学生会に関心のある方は、宗教センターまでおいで下さい。

青山学院大学礼拝週報

2014. 5. 19.
No. 7

復活節第5週

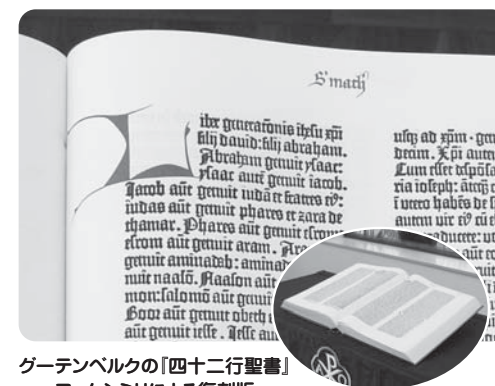
聖書の人々 [37]

「サマリアの女」 the Woman of Samaria

サマリア人は、エルサレムを中心とするユダヤ人と確執のあった人々として福音書に登場します。当時のユダヤ人の立場から見れば、他民族および他宗教と混ざり合った民として、彼らは蔑視と差別の対象でした。しかし、イエスはそのサマリア人を、隣人に対して愛に富んだ人物として譬えのなかに登場させています(ルカ福音書 10:25-37)。

ヨハネ福音書第4章に記されているイエスとサマリアの女の出会いの記事も同様の背景のもとで語られています。最初、イエスはその女に「水を飲ませてください」と語りかけます。するとその女は「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と驚きます。しかし、そのことをきっかけとして両者の間には意味深い会話が展開していきます。初め「あなた」とイエスと呼んでいたサマリアの女は次に「主よ」、そして「預言者」と言い、さらにはイエスが「メシア(救い主)」であることを知ることになります。

サマリアの女はイエスとの出会いによって変えられ、シカルという町で伝道し、多くのサマリア人がイエスを信じることになったと記されています。



ゲーテンベルクの「四十二行聖書」
ファクシミリによる復刻版

(宗教センター蔵:相模原キャンパスウェスレー・チャペルに展示中)
写真は新約聖書マタイによる福音書第1章部分

今年度の主題聖句

神から受けた純真と誠実によって

(コリントの信徒への手紙 二 第1章12節)